

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	家電量販店（店長）	お客様の様子	・省エネ基準改定を控えていることから、エアコンが爆発的に売れている。
	◎	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・今月は販売量が新記録となる実績で、受注も好調である。
	◎	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・改良車種の注文開始に伴い、来客数が多くなっている。税制改正が施行され登録や納車販売も増えている。
	◎	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・中東情勢や物価高などを受けて予約減少を予想していたが、今のところ影響はない。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街を通る人の動きが良くなっているため、消費行動にも現れている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月に入り気候が良くなり、来訪者が増加傾向にある。中国からのインバウンドはいないが、国内外の観光客が商店街で消費活動をしている。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・ハウス関係や葉物野菜、大型野菜は顕著な生産量があり、単価が落ち着き客が購入しやすい状況である。3か月前と比較するとそこそこ販売量が良くなっている。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・当店は生花のギフトをメインにしているが、3月は転勤や卒業式等で日によっては朝までこなせないこともある。4月は入学式や開店祝いの需要があり、ある程度販売量があり売上は順調である。
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・4月上旬は堅調に推移し、下旬は周辺施設のイベントや人気グループのコンサートなどの影響もありにぎわっていた。
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・春から初夏への移り変わり、衣料品が動き始めている。物産催事など期間限定で販売する高額な食料品が売れ、メリハリのある消費行動がみられる。
	○	百貨店（リーダー）	お客様の様子	・気候の変化に伴い、生活必需品にとどまらず、外出用の新しい服を買い回っている。
	○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・自動車関税の引上げや環境性能割の廃止により新車受注が上向いている。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・コーヒーの売上は通例では前年と比較して変わらないことが多いが、新年度になり、新規の外国人客が若干増加している。近隣の大規模工場の影響だと考えられ、売上は上向きの傾向である。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・4月上旬は春休みで、家族での館内のレストランの利用や宿泊が多くみられた。客室は通常の利用人数よりもトリプル利用が多く、旅行での利用が多い。
	○	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・中東情勢次第で大きな影響があるが、一時期の状況からは多少の好転がみられる。
	○	タクシー（統括者）	販売量の動き	・タクシー乗務員の面接や採用が前年比1.5倍で推移し、供給量が増加している。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・年度当初に当たり、既存の保守案件の契約が進んでいるほか、サイト運用やマーケティング施策のアウトソースに関する相談もみられ、顧客の投資意欲は比較的高い。新規案件は検討が多く、販売量としては前月と比べて大きな変化はなく横ばいで推移している。
	○	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・インバウンドの団体客が特に増えている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢に伴う物価高によって消費は落ち込んでいる。特に主婦や高齢者の購買は慎重である。
□	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3か月前と比較した際に、売上状況と売上構成に大きな変化はない。	
□	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・来客数の前年比は、1月95.5%、2月97.1%、3月95.3%、4月96.3%である。依然として来客数の前年割れが続いており、特にインポート商品や宝飾、美術品等の高額品の売上の落ち込みが大きくなっている。	
□	スーパー（店員）	お客様の様子	・米の価格に関する問題はまだ収まらず、銘柄米でお買い得なものばかりが売れ、問合せも多い。	

<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・国際情勢の不安定さにより、客の購買動向は特売日に集中している。店舗への来店頻度が下がり、特売日にまとめ買いをする傾向が強くなっていて、特売日以外は来客数が極端に減少している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上の上昇幅は僅かではあるが、まだ前年を上回っている。弁当などの日販食品も値段が上がっているが、外食の値上がりほどではないため、比較的堅調さを保っている。しかし、月によって来客数に違いがあり、気になるところである。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	単価の動き	・客は物価高騰により、価格が高い商品を手にとることはなく、より安価な商品を購入するため、売上は減少傾向となり厳しい状況になっている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ガソリンの価格高騰の影響はみられず、大きな変化はない。物価対策のプレミアム付商品券がスタートしたが、現状では大きな影響はない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・時間帯によって、午前中の来客数は前年よりも伸びていない。午後のピーク時や曜日によっては回復している時間帯はあるが、1日を通じた来客数や売上は前年と比べて変化していない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3か月前と比べると更に物価が上がっており、客から身に染みているという話を聞く。食品や生活必需品、健康管理に関するものは最低限の購入をしなければいけないため、それ以外には金が回っていないのが実状である。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	お客様の様子	・エアコンの省エネ基準改定に客が影響され、売上自体は伸長しているが、ついで買いは少なく、財布のひもは固い。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	販売量の動き	・近年の状況の慢性化により、物価高に対する声は減少している。しかし、物価高による販売量の落ち込みは依然として実感している。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は地元で産業祭りがあり、新規顧客の購入が順調に伸び、売上が良かった。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・来客数が非常に落ち込んでいる。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（支配人）	来客数の動き	・当ショッピングセンターでは、3か月前にはシール特需が始まり、現状と同程度の盛り上がりを見せていた。4月に入りシール特需は落ち着きを見せているが、カプセルトイの好調や前年よりやや早い人気映画の公開に伴い来客数が増加している。今月もヒット商品に支えられている商況で順調に推移している。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	来客数の動き	・来客数の減少傾向や客単価の上昇傾向は変わっていない。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・春の日帰りバスツアーは3か月前より売上、人数共に好調であるが、海外募集型の減少が大きく販売量は変わらない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	お客様の様子	・電話予約よりWeb予約が増えている。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・個人的にタクシー配車アプリの活用を増やしたため客は増加しているが、仮にアプリ配車を利用していなければ前年比95～100%で推移しているとみられる。
<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・観光業の活気は元に戻りつつあるが、石油価格の高騰の影響が大きく響いている。
<input type="checkbox"/>	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光インターネット回線の販売量が全く伸びない。
<input type="checkbox"/>	競馬場（職員）	お客様の様子	・競馬場における売上や入場者の現在の動向は3か月前と比べて大きな変化はない。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比較すると徐々に景気が上向いている。
<input type="checkbox"/>	その他サービスの動向を把握できる者 [フィットネスクラブ]（営業）	販売量の動き	・20～30歳代の来店や売上が減少傾向である。また、前年との比較でも幼児や小学生の入会が減少している。

□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・みらいエコ住宅2026事業がスタートしたものの、客の動きが見られない。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・3月下旬から4月上旬にかけては、年度の移行期のため来客数は多かったが、20日を過ぎると減少に転じてしまった。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・例年この時期は景気が良くなるが、日用品、衣料品、雑貨等の小売店は厳しい状態である。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・商店街では、大型連休前であるにもかかわらず厳しい状況が続いている。物価高やイラン情勢等により先行きが不安定なことから客の財布のひもが固くなっている。
▲	一般小売店 [精肉] (店員)	それ以外	・仕入価格や包装資材などが高騰しており、利益を圧迫している。また、値上げが受け入れられるか先行きが危惧される。
▲	一般小売店 [茶] (販売・事務)	お客様の様子	・物価変動により、毎月来店していた客の動きが2か月間隔になり購入数が少なくなるなど、来客動向や消費活動が鈍くなり、売上に影響が出ている。新茶時期に入るため、客が求めやすい価格設定で販売する予定である。
▲	百貨店 (経理担当)	販売量の動き	・石油価格の高騰で物価にも影響があり、消費マインドが弱くなっている。紳士、婦人衣料は依然として苦戦を強いられているが、食品催事、飲食等は好調に推移している。
▲	百貨店 (業務担当)	お客様の様子	・店頭では、世界情勢の不安定さからガソリンや石油製品の値上げなど将来に対する不安の話をする客が非常に多い。また、衣替えのシーズンだが、将来の不安からモノやコトに対する支出を抑える客が多くなっている。
▲	百貨店 (営業企画担当)	単価の動き	・様々なカテゴリーで物価高が消費者に影響を及ぼし、高額品を始めデリー品に対しても消費マインドが低下している。
▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・中東情勢の不安定化により原油価格や物流コスト増加が続く、物価高騰への懸念が強まっている。生活必需品の値上がりで消費者の節約志向が一段と強まり、価格訴求の強いディスカウントストアへ流れる動きも見られる。その結果、来客数の動きにも影響が出て、身の回りの景気がやや悪化している。
▲	スーパー (店長)	単価の動き	・単価の上昇が続き、客の消費への姿勢はとてども慎重である。
▲	スーパー (総務担当)	来客数の動き	・石油問題を背景として様々な物品の値上げが考えられる。各店舗の近隣に新規競合店が出店し、更に価格訴求型の販売促進が行われていることなどから、来客数や購入点数が減少し前年を下回る状況が続いている。
▲	スーパー (経理担当)	来客数の動き	・中東情勢の先行きが見えないため、生活防衛意識が高まり来客数減少につながっている。
▲	コンビニ (経営者)	お客様の様子	・物価高により、来客数が減少している。
▲	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・夜間帯の来客数が前年比90%になり落ち込みが継続している。節約ムードが定着し、ディスカウント業態へ流れる傾向である。
▲	コンビニ (店長)	販売量の動き	・イラン情勢の不透明化により、物価の動きが激しくなり、経済が不安定で客足が鈍っている。
▲	旅行代理店 (統括者)	来客数の動き	・当社の市内7店舗の来客数が減少している。余暇への消費額が影響し、特にファミリー層の動きが鈍くなっているため、景気の影響を受けている状況である。
▲	通信会社 (役員)	お客様の様子	・燃料費や生活物資の値上げの更なる長期化が影響し、生活必需品以外への購買意欲が減退している。
▲	ゴルフ場 (従業員)	来客数の動き	・韓国からの来場者が減少し、連日の天候不順によるキャンセルで入場者は減少傾向にある。台湾からの来場者が期待できる。
▲	美容室 (店長)	お客様の様子	・客の来店回数が減少しており、物価上昇を懸念している。

	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・採用環境が急速に厳しくなっている。他業界の大幅な賃上げに伴い人材流出が増加し、担い手不足からサービス提供の期間損失が比例して増加している。
	▲	設計事務所（代表）	単価の動き	・ナフサ不足のため商品が高騰していて、入荷がない状況である。
	▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・子供の学校教育以外で塾や英会話等を辞める事例が増え、景気は悪くなっている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢の影響により原油価格が高騰し、食品を始めとした生活に関する全ての商品に値上がりの可能性が発生している。ファッション販売では苦戦が続いていることが客の様子から判断できる。
	×	衣料品専門店	来客数の動き	・中東情勢の報道から消費に対して慎重になっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・中東情勢の影響によって様々な商品が値上がりし、節約志向になっている。
	×	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・様々な物の値上がりで、客は洋服を買い控えている状況である。
	×	家電量販店（従業員）	それ以外	・中東情勢によりメーカーからの製品や工部材の高騰及び入荷遅延、出荷停止などの影響が出始めている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・前月は客の動きがあったが、今月は非常に悪く、来客数がかなり減っている。
	×	設計事務所（所長）	それ以外	・イラン情勢で、石油化学製品の品不足や価格上昇が顕著で、新築やリフォーム等の建築施工に大きな支障が出ている。また、生活必需品への影響も出始めており、特に地方の個人事業主や零細企業では、収入の増加も見込めない。
企業 動向 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・イラン情勢により原油価格が高騰し、各種材料の値上げが懸念されるが、各取引先ではその状況を乗り越えるための動きが見られる。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・冬に鳥インフルエンザの発生が少なかったため、生産は計画どおりに流れている。販売では輸入の畜産物が予定どおりに入っており、国産の引き合いは相変わらず強い。価格も過去にない相場になり、さらに3～4月は需要が多い月であるため、その需要に対応できない状況である。生産コストは、中東情勢を心配していたが、今月までは限定的な影響にとどまり、ある程度の業績で終わることができている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・前年度の受注状況は3月で完了している。今年度の予定は客、メーカー共に様子見の状態になっている。景気は良くなりつつあるが、外的要因で材料受注が難しい状態がしばらく続くと予測している。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量はそこそこ増えてきたものの、単価が厳しく仕事の回転率向上に奔走している。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注に関しては引き続き増加傾向にあるものの、中東情勢の影響による原材料の調達難や価格高騰など不安材料が多く、今後の生産に大きく影響される。
	□	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	受注量や販売量の動き	・全体的に現状と変わらない取扱量であるが、商品によって増減がある。顧客も原料が手に入らないため、危惧している。
	□	輸送業（従業員）	取引先の様子	・中東情勢の影響で材料等が手に入らず生産等の動きが悪くなっているため、引越等々の需要はあるが相殺されているような状況になっている。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・イラン情勢により国内の化学品メーカーを始めとして、原油から製品をつくる多数の企業に減産や停止、個数制限、値上げ等様々な影響が発生している。世界的な情勢であるため、輸出入の低調傾向が続いている。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫保管量、出荷量共に減少しているが、例年と比べ景気判断を左右するほど大きな変化ではない。
	□	金融業（経営者）	それ以外	・会員数の減少に歯止めがかかっていない。

	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・県内企業の業況判断は製造業や卸小売業で厳しい見方が強まっている。卸小売業では仕入価格上昇により資金繰りがタイトになっている。
	□	金融業（営業）	取引先の様子	・イラン情勢における原油価格の高騰等の影響や品不足は特に発生しておらず、現状での変化はない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・自動車関連産業では受注が安定しており特に変化がない。
	□	不動産業（経営者）	取引先の様子	・取引先や顧客企業の情報は、先行き不安などの話題が多く、余り変動がない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・自社の受注や案件数に大きな変化がない。
	□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・今月は新しいダイレクトメールで販売促進に努めているが、その効果が現れていない。
	□	その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	取引先の様子	・市町村のまちづくり、福祉に関する調査、計画策定の委託業務を行っているが、今年度のまちづくりに関する業務として、都市計画や公共施設の調査や計画策定の業務があり、委託金額が大きく、大半がプロポーザルにより業者が選定される。福祉に関する調査も高齢者や障がい者の計画がまとまってプロポーザルとなり、規模の大きい業者や実績を有する業者が優先され、受注できる機会が少なくなっている。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響により取引先における資材や原材料の値上げが徐々に発生している。コスト高をすぐに吸収できる売上が計上できる中小企業は少なく、収益悪化の見込みが高い。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は、前月比でプラスであるが、前年比ではマイナスとなっており、全体の流れではマイナス基調は変わっていない。世界的に情勢は不透明になっており、不安視する動きが広がっている。さらに、原油価格の上昇により様々な物の価格が高騰し3か月前と比較しても景気はやや悪くなっている。
	▲	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・アルコール度数の低い物が売れ、高級酒は売れていない。儉約志向が高まっている。
	×	食料品製造業（経営者）	それ以外	・イラン情勢の影響により、来月から石油製品の値上げが始まるため、営業利益をかなり圧迫する状況になる。
	×	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・今月は同業者の閉鎖や縮小があり、30人以上雇用している工場も閉鎖している。個人経営の工場は苦しい状況である。今後も厳しい状況が続く。
雇用関連	◎	—	—	—
(九州)	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月中旬から、求人数や求職者の登録に動きが出てきて、約2割の増加となっている。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・短期の案件やスポット案件の引き合いはあるものの、長期案件の増加にはつながっておらず、全体の求人数としては大きな変化はみられない状況である。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・依然として求人数が、前年を下回っている。
	□	新聞社 [求人広告]（社員）	それ以外	・飲食店などはインバウンドの影響によりにぎわっているようにみられるが、地元生活者としては景気が上向いている実感はない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人件数や就職件数が前年比で増加しており、企業の採用意欲に変動はない。
	□	学校 [大学]（就職支援業務）	求人数の動き	・2027年3月卒業予定の大学生や大学院生対象の大卒求人倍率は1.62倍で、2026年卒の1.66倍から0.04ポイント低下しているが、企業では引き続き堅調な採用意欲がみられる。なお、大企業については採用予定数が2026年度の実績を下回る調査結果が出ているため注視している。
	□	学校 [専門学校]（就職担当）	採用者数の動き	・当市のIT業務はエネルギー系や金融系の仕事が多く、IT人材について採用基準が上がり、人材が少ない。
	▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人の動きでは、企業側の採用に関する動きが鈍い。観光業などにはにぎわっているが、事務派遣に関する採用の動きは低調である。

▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	<p>・求人広告の動きから、景気はやや弱含んでいる。求人では募集枠の縮小や掲載頻度の減少が目立ち、販売促進系の出稿が減っている。また、中小企業経営者からは社会保険料の負担が重く、社員採用が難しくなり、消費税の納税負担も大きくなり、広告費を抑えざるを得ないといった声がある。人件費や原材料費の上昇も重なり、全体では企業の慎重姿勢が強まっている。このため周辺企業の景況感はやや悪化している。</p>
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	<p>・物価の高止まりや世界情勢による原油、ガソリンの価格高騰に対する不安などもあり、消費行動については意欲も活動もやや鈍っている。既に業種によっては諸資材の仕入れに制約を受けている企業がある。</p>
×	—	—	—